

令和7年 横須賀市感染症発生状況について

- ▶ 1 疾患別発生届報告数年推移(全数報告)について
- ▶ 2 令和7年基幹病院定点疾患数について
- ▶ 3 令和7年疾患週別報告数推移(小児科・眼科定点報告)について
- ▶ 4 covid-19の状況について
- ▶ 5 インフルエンザの状況について

令和7年度 第3回横須賀市感染症対策委員会資料

疾患別発生届報告数年推移(全数報告)について

(件)

感染症法第12条に基づく発生届の届出件数の推移です。

(0件は、空欄としています。)

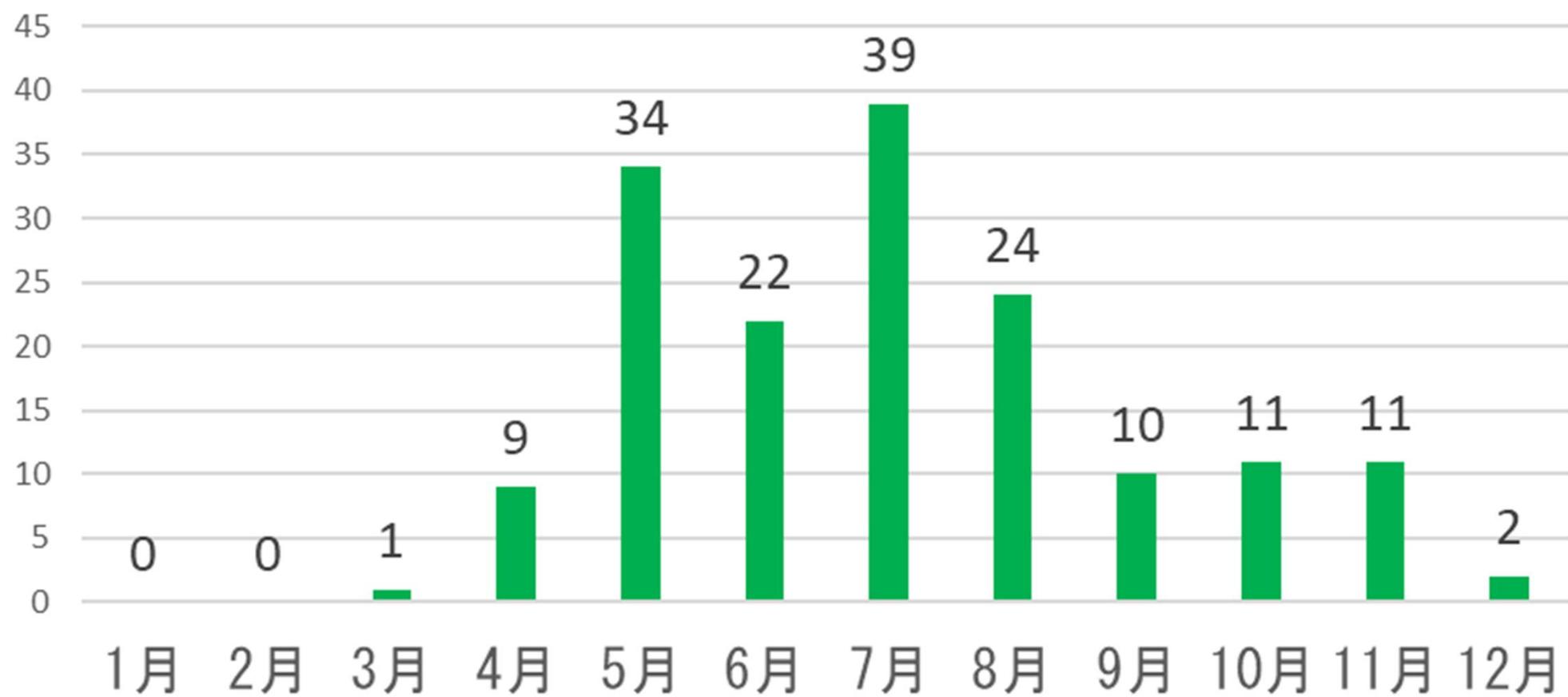
令和7年は百日咳が163件と大幅に増加しました。

梅毒については、横須賀市は23件で、前年と比較し減少がみられました。神奈川県においても令和7年751件(暫定値)と、過去最多であった令和6年800件から減少し高止まりの状況です。

百日咳の令和7年の月別届出状況は次のシートのとおりです。

類型	感染症名	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
二類	結核	91	54	53	105	56	76	57	37	37	28	41
三類	細菌性赤痢	1		2						1		
	腸管出血性大腸菌感染症	2	6	5	10	10	5	1	5	6	9	9
	腸チフス			1							1	
	デング熱	2	2	1								
四類	A型肝炎	1		1	3	1						
	E型肝炎	1	1	3	3	4	4	5	3	4	12	9
	レジオネラ症	4	6	8	4	5	6	6	6	11	10	6
	つつがむし病					1	1					
五類	アメーバ赤痢	3	5	2	1	1	4	1		3	4	
	ウィルス肝炎		1		1					1		
	カルバペナム耐性腸内細菌目細菌感染症	4		1	5	11	7	3	3	8	14	11
	急性脳炎	41	1	1	1							
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4	1	1	1			1		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	2	1	4	3	4	5	7	4	8	5
	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1		2	2	5	2	2	2	3	4	2
	シアルジア症					1						
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		2	3	5	2	2	1	1	4	2	3
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1		1								
	侵襲性肺炎球菌感染症	10	8	9	17	13	8	8	7	10	17	16
	水痘(入院例)					2	3	2			1	2
	梅毒	12	17	20	23	16	5	15	20	15	28	23
	播種性クリプトコックス症					1		2	1		1	
	破傷風		2									
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	5	1			1						
百日咳				5	7	1	1	2	12	4	163	
風しん				20	4							
麻疹		1			1							

令和7年 月別 百日咳 届出状況



令和7年 基幹病院定点疾患数について

基幹定点医療機関は、2月末までは横須賀市立市民病院、3月1日からは横須賀市立総合医療センターへ変更となりました。

基幹定点医療機関からは、感染症法第14条に基づき「細菌性髄膜炎」「無菌性髄膜炎」「マイコプラズマ肺炎」「クラミジア肺炎(オウム病を除く)」「感染性胃腸炎(ロタウイルス)」の発生件数について報告を受けています。

令和7年の報告数は、「細菌性髄膜炎3件」「無菌性髄膜炎16件」「マイコプラズマ肺炎57件」「感染性胃腸炎(ロタウイルス)1件」となりました。

「クラミジア肺炎(オウム病を除く)」の報告はありませんでした。

なお、令和6年の報告数は、「細菌性髄膜炎3件」「無菌性髄膜炎1件」「マイコプラズマ肺炎1件」で、「クラミジア肺炎(オウム病を除く)」「感染性胃腸炎(ロタウイルス)」の報告はありませんでした。

令和7年 疾患週別報告数推移(小児科・眼科定点報告)について

感染症法第14条に基づく、小児科・眼科定点医療機関から令和7年の疾患週別報告数の推移です。

グラフは、前年と比較し、年間の推移を表しています。

令和7年は赤の折れ線で、令和6年は青の折れ線で示しています。

疾患ごとに注意報・警報レベルがある場合は、注意報は橙色の線、警報は紫の線で示しています。

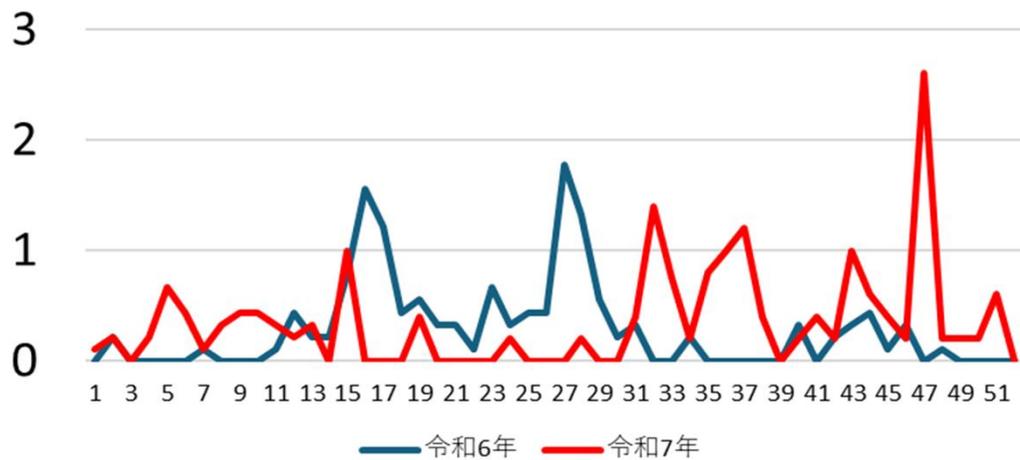
報告数が5件未満の「流行性耳下腺炎」(小児科定点)、「急性出血性結膜炎」(眼科定点) および

件数が少なく、大きな変化のない「突発性発疹」(小児科定点)を除いています。

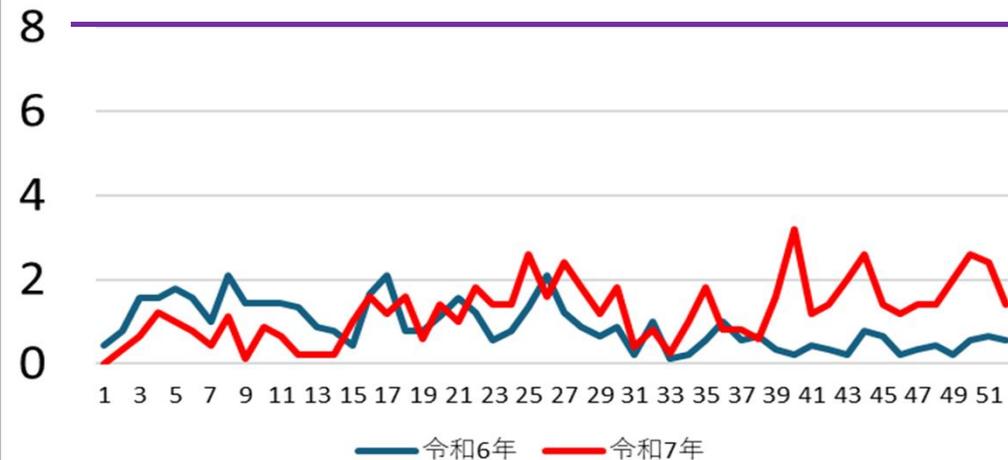
小児科定点(5医療機関)は背面を青色、眼科定点(2医療機関)は背面を緑色としています。

(小児科定点)

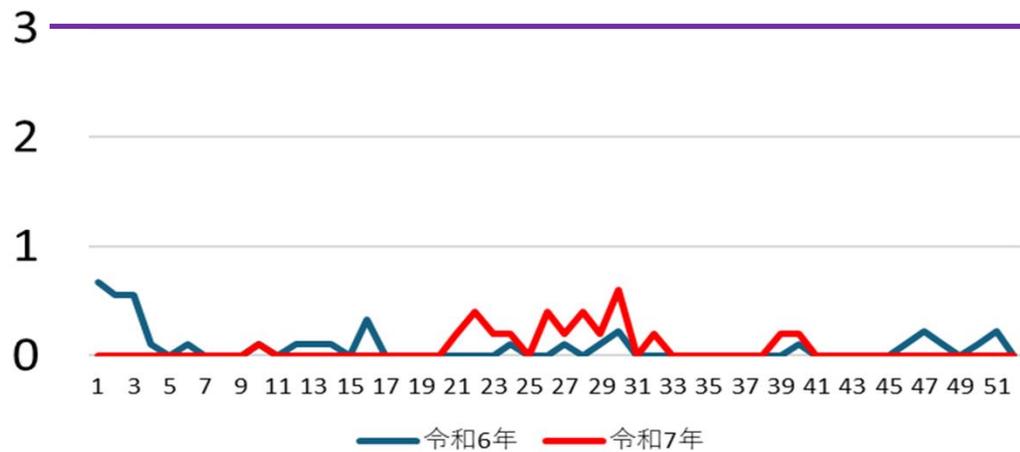
RSウイルス感染症



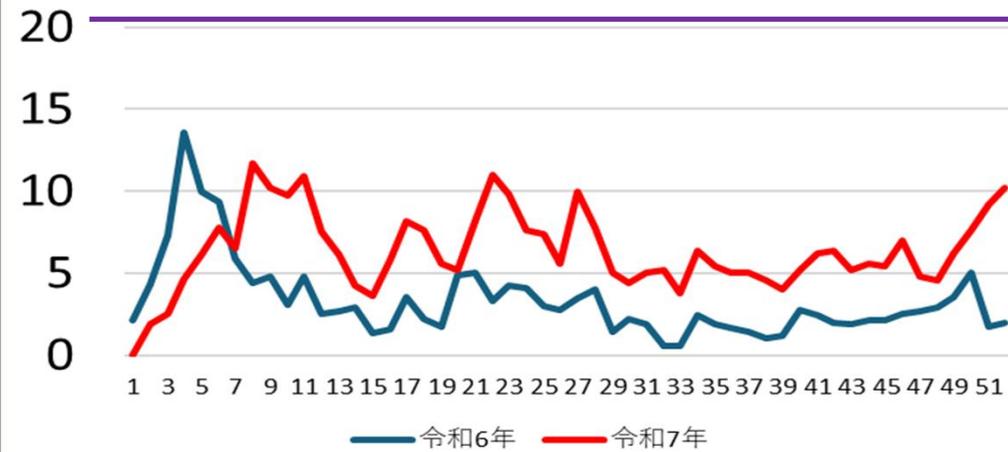
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 警報レベル8



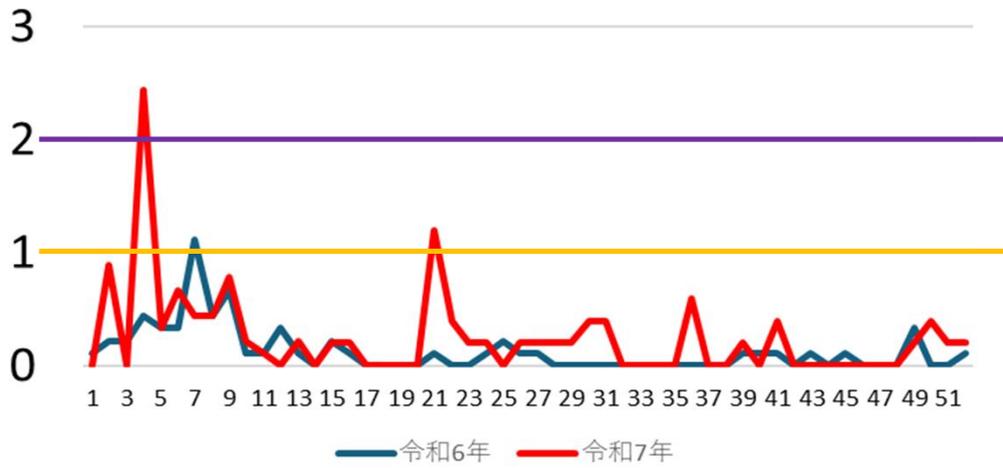
咽頭結膜熱 警報レベル3



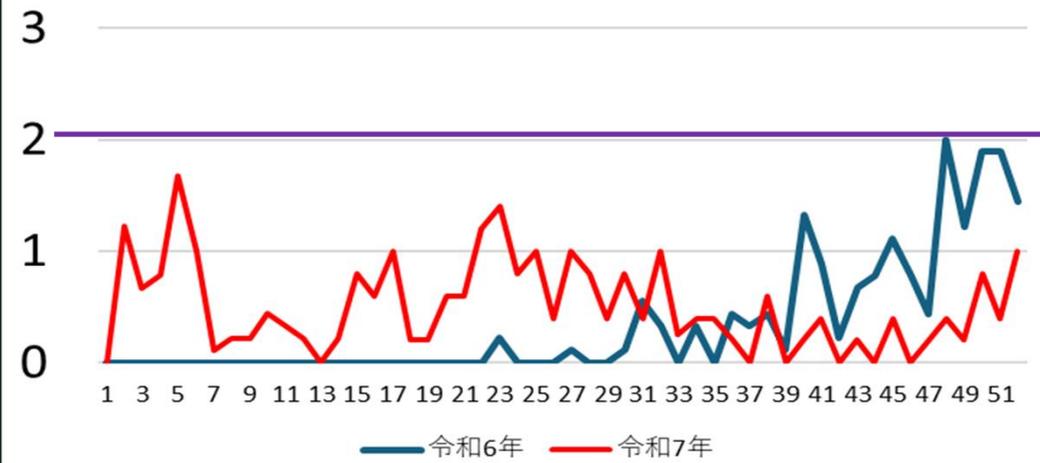
感染性胃腸炎 警報レベル20



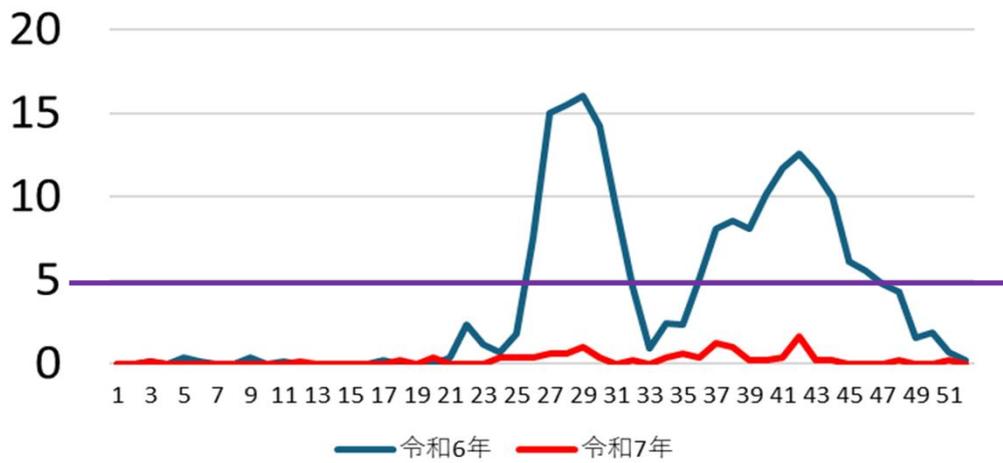
水痘 注意報レベル1 警報レベル2



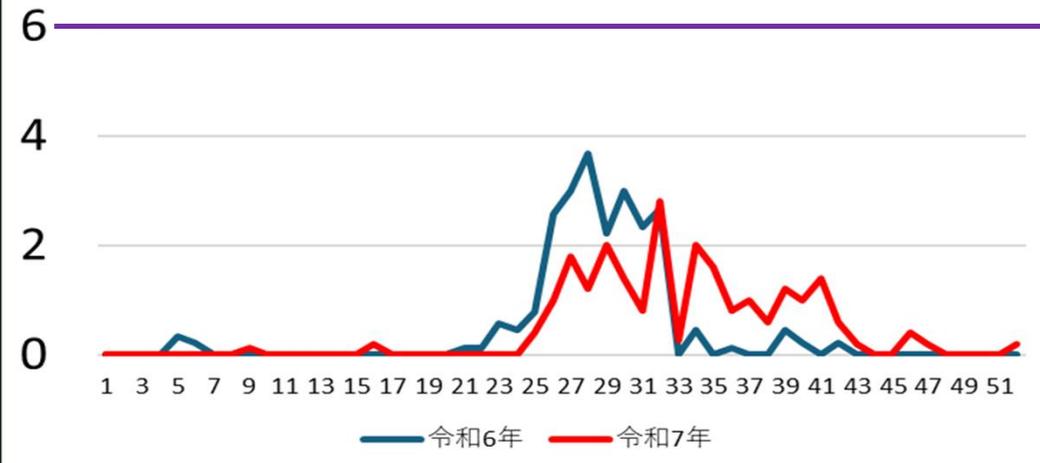
伝染性紅斑 警報レベル2



手足口病 警報レベル5

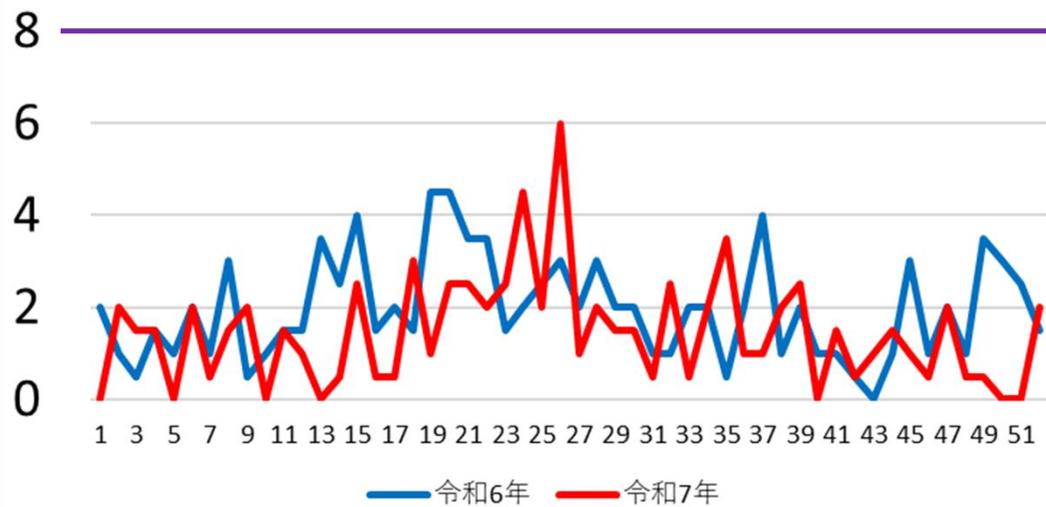


ヘルパンギーナ 警報レベル6



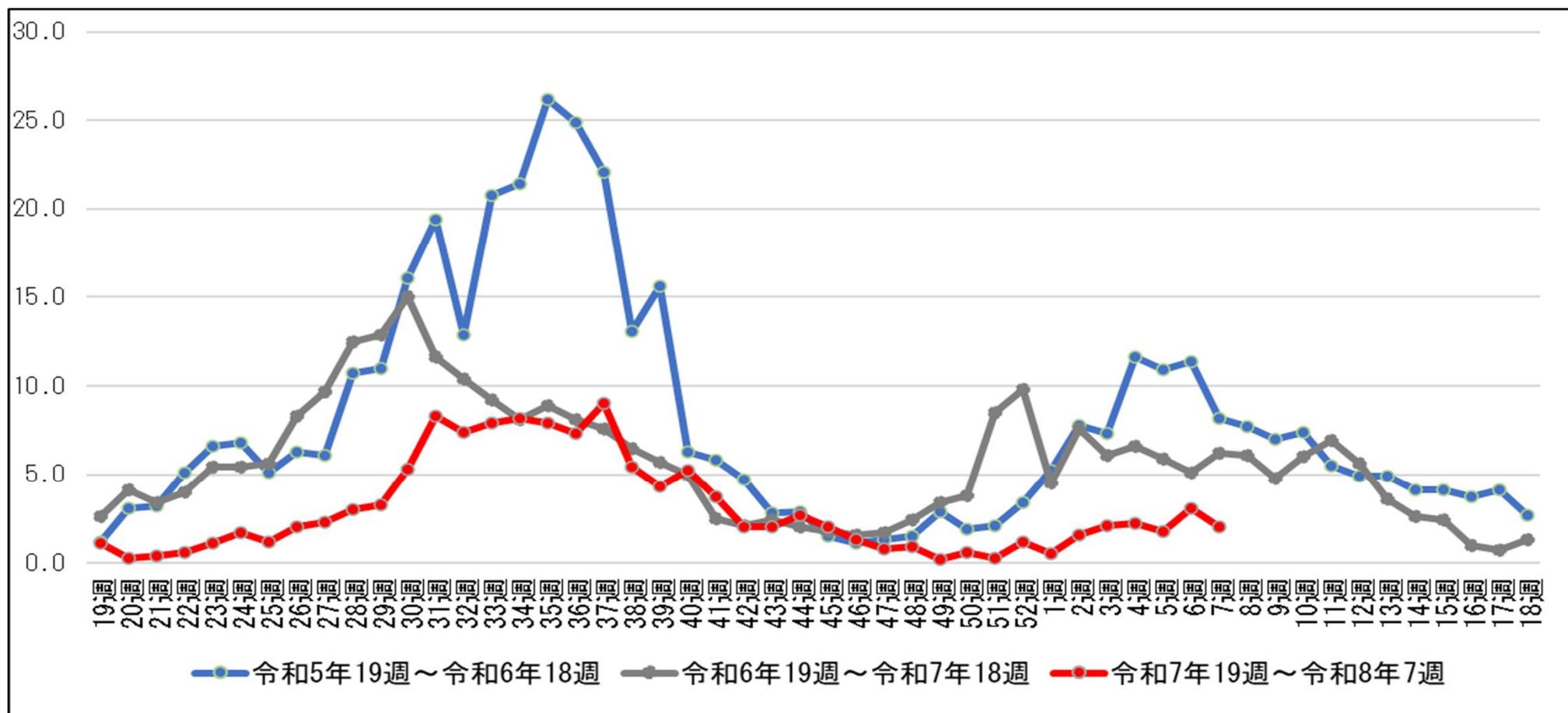
(眼科定点)

流行性角結膜炎 警報レベル8



covid-19の状況について(令和5年19週～)

covid-19は、五類に移行した令和5年5月8日(第19週) から約3年間を比較しました。
年々、定点あたりの人数が減少し、今シーズン(赤線)の冬のピークと呼べるものはいまだにありません。



インフルエンザの状況について(令和5年19週～)

インフルエンザは、c o v i d 1 9 が五類に移行した令和5年5月8日(第19週) から約3年間を比較しました。今シーズン(赤線)は流行が早く第46週に警報レベルに達した後、警報解除レベルまで下がりましたが、再び第6週に警報レベルに達しました。

